

JFW テキスタイルフェア 2015AW 開催報告

[会期] 2014年11月5日(水)～6日(木)

[会場] 東京国際フォーラム 展示ホール

[主催] 一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構

JFW テキスタイル事業運営委員会

[後援] 経済産業省 独立行政法人 中小企業基盤整備機構

独立行政法人日本貿易振興機構(ジエトロ)

一般社団法人 日本アパレル・ファッション産業協会 日本繊維輸入組合／日本繊維輸出組合



日本ファッション・ウィーク推進機構(JFW)主催の「Premium Textile Japan 2015 Autumn/Winter(PTJ2015AW)」、
「JFW JAPAN CREATION 2015(JFW-JC2015)」が11月5日～6日の2日間、有楽町の東京国際フォーラム・
展示ホールで開催された。今回は、例年より約2週間早い開催となったが、前回を上回る入場者と出展者による
熱い商談が会場内の各所で繰り広げられた。

【 来場者 】 前年開催の好評価を背景に、今回は19,889人の来場者数(昨年:19,681人)を記録した。今回は、
産地展の中では最大規模の尾州マテリアル・エキジビジョン展と会期が重なり、また、今回から日本企業も参加する
ヨーロッパ・テキスタイル・フェアが翌週に開催されたが、影響を受ける事なく前年を上回る来場者を得た。来場者
の内訳では、非バイヤー(プレス、関係者・団体、Visitor・その他)の合計が、4,167人(前年比80%)となり、バイヤ
ー(アパレル・小売、問屋・商社等)の合計が1,237人増の15,703人(前年の108.5%)となっている。この結果、
PTJ/JFW-JC 合算でもバイヤー比率は80%(前年73.5%)となり、特にPTJでは86%を超えている。

◇「JFW-JC2015」「PTJ2015AW」来場者数

	問屋・商社・ 企画会社他	アパレル・ 小売	プレス	主催関係者・ 関係団体	Visitor/ その他	Student	各合計	総来場者数
JFW-JC2015	8,256	7,447	193	27	1,263	1,029	18,215	19,889
PTJ2015A/W					1,674		17,597	

*注:総来場者数はPTJ、JC何れにも来場された方を1名とカウント(故に、各展示会合計の合算数と総来場者数は一致しない)

【 運営 】 昨年は予想以上の来場者が殺到し、受付にて長蛇の列を作ってしまった。また、例年使用しているロビー
ギャラリーが今回は使えない事から、ホワイエだけで如何に混乱なく入場受付をするかが運営上の最大のポイントだ
った。その対策として会場入口の増設、団体受付の新設、誘導員の増員、
受付業務の簡素化の他、登録バイヤーへのパスの事前送付を実施。結果、
初日朝のオープン時に一時的に混雑したが、後はスムーズな入場が出来た。
やはり、今回より導入したパスの事前送付による効果が大きく、PTJ来場者
の約半数がパスを持参して来た。



JFW JAPAN CREATION 2015

JFW
JAPAN
CREATION
2015

- ◇ 日時 : 2014年11月5日(水)~6日(木) (10:00-18:00)
- ◇ 会場 : 東京国際フォーラム ホール1(3,000㎡)
- ◇ 来場者 : バイヤー及び招待者、業界関係者、学生
- ◇ 入場料 : 当日 2,000円、事前登録・学生割引 1,000円
- ◇ 後援 : 経済産業省 独立行政法人中小企業基盤整備機構
独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO)
一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会
日本繊維輸入組合 日本繊維輸出組合



□ 出展状況

ゾーン	申込件数	総参加企業数	小間数
テキスタイル(国内)	51	158	107.6
テキスタイル(海外)	12	41	41
繊維関連・製品	5	9	12
皮革・毛皮	5	40	43.8
服飾資材	9	19	14
Media Stand	2	2	1
合計	84	269	219.4

* 海外出展者: 韓国1件19小間、台湾5件19小間、中国2件2小間、タイ1件1小間

* 新規・復活出展者: 11件(31社)16小間



■ トレンド&インデックス(JC)コーナー

今回は9月の「THE Japan Observatory」at Milano Unica、10月のIntertextile 上海「Japan Pavilion」と同様に、天井部分に軽量ボードを多用し、壁面パネルをくぐって別シーンへ切り替わるコンパクトな空間を演出した。

《トレンド 展示点数》 634点

・時空詩魂 173点 / 渋カワイエッセンス 159点 / 香華 165点 / アートフルコラージュ 137点

《JC インデックス 展示点数》 175点



■ JFW-JC FORUM

第一線で活躍する講師陣が日本のテキスタイルやファッション、マーケットの最新情報やテーマに沿った解説を語る“Forum”。今回も旬な話題をテーマに以下の4本を実施した。

【11月5日 14:00～】「これが日本のワザとクオリティー」

講師: 辻 庸介氏 / 株式会社辻洋装店 代表取締役

東京婦人子供服縫製工業組合 理事長

山下 隆氏 / 株式会社オンワード樫山 品質管理部部長



アパレル市場で輸入品の浸透率は96%(数量ベース)に達し、国産品のシェアがわずかに4%になった中で、辻氏は「最近では国産品に寄せるニーズが高まっているが、縫製工場を増やすことは容易でなく、工場の増設は難しい」と語りました。また、縫製技術に関しては「“作業の作り”と“技術の作り”があり、両者の出来栄はまったく違う」と述べ、日本にとっては“技術の作り”を具現化していくことが必須であると強調しました。山下氏は「アパレルの品質には①素材品質、②設計品質、③製品品質、④企業品質があり、これらを総合的に高めることが重要である」と述べました。さらに今後、日本のアパレル商品が海外で評価を高めるために山下氏は「デザインはもちろんだが、クオリティーの高さは日本のアイデンティティーになるはず」と、さらなる品質向上を促しました。

【11月5日 16:00～】「“定点観測”34年で見たトレンド変化」

講師: 高野 公三子氏 / 株式会社パルコ『WEB アクロス』編集部 編集長

自らも定点観測を続ける高野氏は、東京・原宿における時代変化を取り上げ、「かつて原宿で見られた路上に作品を並べる光景が復活し、自由なビジネスが再現されている」と街の変化を解説。最近の定点観測では「“ニューバリュー・マーケット”に焦点をあて、それによって2000年代の“MDのコモディティ化”が浮き彫りなる」と話しました。また、同氏は台頭しつつある『第4の消費』に関し、その特徴を「①つながり、②日本らしさ、③利他主義、④シェア消費、⑤ネット通販などが共通項になっている」とし、ヤング世代の中核になる新人類ジュニア世代は「本人たちが若者らしさに気付かず、若者の概念が崩れている」と分析しました。



~~~~~

【11月6日 11:00～】「エコを加味した機能素材のトレンド」

講師:楊 暁琴氏 / 紡拓会=台湾テキスタイル連合会 事務局次長



台湾の紡拓会で繊維ファッションの市場開発を担当する楊氏は、市場やブランド商品の発展過程などを分析した上で、台湾における機能素材とエコ素材の状況について語りました。その中で「最近ではファッションの機能化とスポーツウエアのファッション化、それに加えてアウトドアのエコ化が潮流になっている」と述べ、状況について解説しました。特に機能素材に関しては「ヨーロッパのテキスタイル展で台湾のブースの70%を占めた」といい、2000年に制度化した20項目からなる「『台湾の機能性織物試験認証制度』を国内だけでなく、日本を含めた諸外国に向けても浸透させていく」考えも明らかにした。

【11月6日 14:00～】「Milano Unica で得た日本の実力」

講師:貝原 良治氏 / カイハラ株式会社 代表取締役会長

JFWテキスタイル事業 運営委員長

武藤 和芳氏 / 日本繊維輸出組合 研究員



9月に開かれた「ミラノユニカ」(MilanoUnica)では、ヨーロッパ以外の国としては初めてとなるジャパン・パビリオン「The Japan Observatory」が特設されました。そのミラノでの出展に関して武藤氏は「2013年に輸出したテキスタイル1500億円の10%がヨーロッパ向けで、そのうち最大の60億円がイタリアで占められている」と述べました。日本製品について貝原氏は「意匠もあるが繊細な技術への評価が高い。さらに加工技術に加えて、少ロットと新しいワザへの期待も強い」と報告。ただ、そうしたなか武藤氏は「“トレンドやカラーの提案が少ない”というバイヤーの声もあった」と語り、これらが今後の課題になるのではないかと提言しました。

■ 産学人材育成コラボレーション 8th『FORM PRESENTATION』

—Textile Theme:「ウールの進化・3」 —Fashion Theme:「Urban Military」

テキスタイルへの深い知識をもち、クリエイティブなデザイン発想力をもつ人材輩出を目的とした産学連携事業。5月のウール大学に始まり、ポートフォリオ制作(審査会)、産地研修会を経た9校9グループの学生は、ニッケから無償提供された素材を使ってガーメントを制作。完成した作品はJFW-JC2015 展示ホール入口にグループ毎のブースを設けて展示発表を行った。会期中は訪れた人達に学生自らプレゼンを行い、自作品を熱心にプロモーションしました。



### ◇ 審査講評と受賞グループの選出

今回のファッションテーマは「Urban Military」。ヴィンテージ・ウールの中から代表的な3素材「メルトン、ヴィンテージ・サージ、スクール・サージ」を選定。JFW-JC2015 のトレンドテーマの一つ、「Playful Collage」のカラーを連動させ、60年代のミリタリーやワーキングウエアからインスパイアされたアイデアをもとに、“マスキュリン×フェミニン”の要素をミックスしたニューフォルムの表現が重要となります。審査は、現在活躍中のコレクション・デザイナーや、小売店・アパレルのバイヤー75名に評価を依頼。厳正な審査の結果「最優秀賞」「優秀賞」、並びに素材協力企業ニッケより“ニッケ賞”も同時に決定しました。(以下、写真を参照)

全体講評としては、「全体にレベルも完成度も高くなっている」「マーケットにはないフレッシュなアイデアが素晴らしい」という好評価なコメントが多かった反面、「歴史のリサーチをしっかり行い、イメージソースの深堀をしてほしい」「全体に重い。クリエイションであっても軽く、しかも独創的な作品を作って欲しい」「基礎の縫製力をつけてほしい」等の激励のコメントも寄せられました。



《最優秀賞》  
ドレスメーカー学院  
(massas)



《優秀賞》  
エスモードジャパン東京校  
(strong delicate)



《ニッケ賞》  
文化服装学院  
(For 2)



テーマ素材

### 《出展者の声と出品内容：JFW-JC》

匠の夢は特殊な整経機と自社改造した織機で、他では出来ない大柄の先染め織物を製造できる世界でも数少ないメーカー。「ハンドワークス」「圧縮チェック」「インクジェットほぐし織り」などオリジナリティあふれる素材を提案した。今回の初出展を契機に「自ら売る提案型の企業を目指しています」とコメント。



Bishu Style のブースでは、出展者の素材を JFW Textile View のディレクションに沿った内容で編集したインデックス・コーナーを設置。ウールの多様性と素晴らしさをアピールした事で、多くの来場者が訪れていた。出品内容は御幸毛織が厳選された上質原料を使い、ゆっくりと織り上げた「ナポレオン」。パレモは縮絨ガーゼ天竺やリバージャカード圧縮素材などを出品しました。ソトーは前処理で染めたナイロン 100%の「ジエムストーン」を提案し、ケケン試験認証センターは獣毛試験の紹介を行った。



いわて産業振興センターのブースには有力縫製企業 3 社が出展。「今回が 3 回目の出展。岩手県には縫製工場

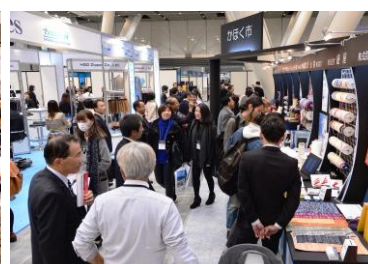
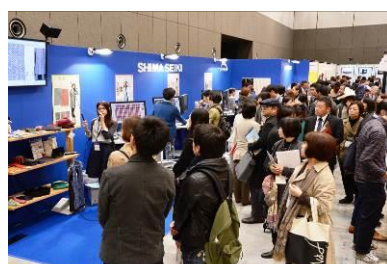
## JFW テキスタイルフェア2015A/W 開催報告(ファイナルレポート)

が 200 社ほどあります。特に岩手県北部は就労人口の 7~8%が縫製業。縫製業が発展すれば、人口減にも歯止めがかけられ、少子化過疎化対策にもなる」と岩手の縫製をアピールしました。

KOFOTI(韓国繊維産業連合会)の韓国パビリオンには 12 社が出展。初参加のコンバーターSFT は独自デザインと欧州デザインによるプリントをワンストップ・ソリューションという仕組みで提案。初出展とは思えぬほどの来場者を集めていました。

今回が 3 回目となる台湾紡拓会は「TAWAN ECO TEXTILES」と名付けたブースに 13 社が出展しました。出展者は昨年 の 9 社から増加。参加したスーパーウイルは特殊ニットの専門メーカー。「大阪のインナーウェアメーカーと取引はあるが、初めての出展。地球にやさしい機能素材を日本に広げたい」と新規の顧客開拓に力を注いでいました。香港の blue farm

textile は継続出展。「デニム屋ではなく、インディゴ屋。年商 70 億円で生地売り と製品 OEM を行っています」。デニムは日本では少ない経糸・緯糸とも糸染めで対応。チノ、ジャカード、レース、セーターなど、インディゴ染めした商品全般を扱うのが特徴の企業。



## Premium Textile Japan 2015 Autumn/Winter

- ◇ 日時 : 2014 年 11 月 5 日(水)~6 日(木) (10:00~18:00)
- ◇ 会場 : 東京国際フォーラム ホール 2 (2,000 m<sup>2</sup>)
- ◇ 来場者 : バイヤー及び招待者限定 [入場無料]
- ◇ 出展者 : 書類及びスワッチ審査を通過した厳選出展者(団体不可)
- ◇ 後援 : 経済産業省 独立行政法人中小企業基盤整備機構  
独立行政法人日本貿易振興機構



一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会 日本繊維輸入組合 日本繊維輸出組合

■ 出展状況 : 68件/93.5小間 (昨年:64件/90小間) \* 海外2件/2小間(香港、インド)

| ゾーン | 出展品目など                | 件数/小間数 (8 m <sup>2</sup> 換算) |
|-----|-----------------------|------------------------------|
| A   | 短繊維 (コットン、麻、ウール、複合)   | 25件/30.5小間                   |
| B   | 長繊維 (化合繊、シルク、機能素材、複合) | 19件/31小間                     |
| C   | 染色・後加工、プリント、刺繍・レース、皮革 | 15件/16.5小間                   |
| D   | 服飾資材、アクセサリ、ニット、撚糸     | 9件/15.5小間                    |

## □ PTJ インデックス・コーナー

PTJ 出展ゾーン別(A、B、C、D)に、今シーズンの各社一押し素材をインデックスして編集・展示。来場者を各社ブースへ誘引しました。

展示数:246点 (テキスタイル 181点、服飾資材 65点)



## ■ ビジスマッチング・プログラム

JFW 招待バイヤーを組織し、会期中に参加企業とのマッチングを個別専用商談室でマッチングを行うビジスマッチング・プログラム。今回は大手アパレル・リテール4社と JFW 参加の4メゾンが JFW 招待バイヤーとして参加、PTJ 出展企業からは20社が参加して41件(本番:36件/プレのみ:5件)のマッチングを行った。

【アパレル、リテール企業:ブランド】

- ◆ 株式会社サンエー・インターナショナル :JILL STUART
- ◆ 株式会社東京スタイル:NATURAL BEAUTY
- ◆ 株式会社レナウン:CHARGE
- ◆ 株式会社イタリー :Pink Champagne



【デザイナーメゾン:ブランド/デザイナー(所属企業名)】

- ◆ mame / 黒河内 真衣子(株式会社黒河内デザイン事務所)
- ◆ lessthan\*・MIDDLA / 安藤 大春(有限会社レスザン)
- ◆ Sise / 松井 征心(株式会社 S.I.S.E.)
- ◆ YASUTOSHI EZUMI / 江角 泰俊(株式会社 Ri Design)



## 《ビジスマッチング 参加バイヤーの声》

◇ **株レナウン** (チャージユニット マネージャー/清水 健一 氏、チーフデザイナー /星名 弘子 氏)

大変実りのある商談でした。特に事前に生地を見て商談相手を絞るという手法は合理的です。既に生地を見ていただけに、実際の商談時にメーカーさんとの距離感が近く感じました。個別専用商談室では、その生地がどのように作られているのか、こういうことは出来ないか、こうすれば出来る。そうした相互のやりとりが、その場で出来ることもビジネス・マッチング(BM)ならではでしょう。提案された生地の中には、当社の他のブランドに合うと思われるテキスタイルもありました。BMは期待以上の内容でしたから、他のブランドにもこのシステムを紹介したいと思います。

◇ **Mame** (デザイナー/黒河内 真衣子 氏)

今回が初参加です。通常、展示会に行っても人気のあるブースほど多くの人が次々に訪れ、ブース内でゆっくりと生地を見ることが出来ませんが、このBMはバイヤーにとって非常に効率的で良かったです。今回は、事前マッチング時にイメージに合う素材を提案された3社の方と会いました。メーカーの方には「こういう素材が見たい」という要望を事前に出していたので、商談室ではピンポイントで見ることが出来ました。クリエイターの場合、ロットの問題が出てきますが、その場合はチャージアップをお願いしています。いいものを作ろうという思いはあっても、工場も私たちクリエイターもビジネスをしているのですから、甘えた関係では工場もブランドも伸びません。

### 《出展者の声と出品内容：PTJ》

初出展のワダノブテックスは、トーションレースを部材として捉え、マシンで繋ぎ合わせる事で装飾的なテキスタイルにして提案しました。「輸出では円安効果の実感はまだないが、PTJにて国内の新規顧客を開拓したい」と意欲的に接客していました。プリントが得意の北高も初出展。「来場者が多く、新規開拓に寄与する」と満足度は高かった様子。出品した形状記憶性素材へのプリントはこれまでにないもの。

野崎染色も初出展。「酸性染料によるナイロンやウール等へのインクジェット・プリントに焦点を当てて出展」しました。シルクでも酸性染料だと光沢感が増します。「横並びのインクジェット・プリントの提案が多い中で、当社の独自技術をアピールし、多少加工賃が高くても理解して頂く」と話していました。

クレッシンド・ヨネザワはウール地に絹紡糸のスライバーをニードルパンチしたストールなどを出品。「受注は増えている」と好調を持続しています。丸井織物は自販事業確立に向けて自社ブランド「ミ・フォルマ」を提案。高い形状記憶性能と復元性を持つナイロン100%素材です。「ナイロン後染めの形状記憶素材は世界初」で、糸の選定、製織、加工によって開発されました。山陽染工は「熟練の職人技と独自の染色機で、糸の中心まで染まらない硫化染め」を打ち出しました。海外の著名ブランドも採用する画期的な技術です。鈴木晒整理は紳士服地向けの提案を増やしました。また、綿の先染め織物を秋冬素材に変化させる加工も提案。先染めの綿織物の片面を特殊加工することでウールのフワノのような表情に変えました。



### 《来場者の声》

ストールでも有名なイタリアの高級テキスタイルメーカー、ファリエロ・サルティ社のマウリッツォ・サルティ氏が来場。「9月のミラノユニカ展に日本企業が参加し、関係者から日本の生地を見に来ないかと、この展示会に誘われました」。シャトル織機のデニムが多く、興味を持ちました。当社はアッパーエレガンス系でフィールドが異なりますが、バリエーションの豊かさに驚きました。また、合繊素材の加工にも日本独自のテクニックが活かされていることも印象に残りました」とコメントしました。



「今回は並ぶこともなく、スムーズに入場できた」(クリエイター)、「事前パスが届いていたから、前のように長蛇の列に並ばずに済んだ」(アパレル)。来場者数は2日間で約2万人と前回より微増ながら、入場時の行列解消という課題に関してはクリア出来た今回展でした。展示内容については「出展の幅が広がっている。毎回、新しいものを見るのが楽しみ」(アパレル)という声をよく聞きます。今回、JFW-JCで31社、PTJは12社が新規・復活出展者でした。新しい参加者の提案が展示内容の厚みを増しています。また、JFW-JCでは19社が服飾資材分野で、PTJにも



## JFW テキスタイルフェア2015A/W 開催報告(ファイナルレポート)

多くの刺繍・レース企業が出展されました。「刺繍やレースをまとめて見ることができるのはJFW-JCだけ」とトレンドに敏感な学生が話していました。

「3回目だが、今回は加工物が目立った」(アパレル)、「前回同様に個性的な素材が多い」(アパレル)、「初めて来たが、いろんな素材が一堂に集まっていた」(アパレル)と、短繊維から長繊維、機能素材から染色加工を駆使した感性素材まで幅広い提案がなされているのが、この展示会の魅力となっています。

来場されるバイヤーは「まずトレンドコーナーで世界観を見て、インデックス・コーナーでイメージに合った企業を探す」(アパレル)ことが多い様子。また、「既存の取引先を訪ねながら、新しい素材がないか会場を回る」(商社)というパターン。また、「会場全体に活気はあるが、組合関係のブースでは担当者が細かい質問に対応できていない」(メーカー)といった課題も残っているようです。



### <2015年 JFW テキスタイル事業 実施予定>

#### 【海外】

「The Japan Observatory」at Milano Unica 2016 Spring/Summer

会期：2015年 2月4日(水)－6日(金)

「The Japan Observatory」at Milano Unica 2016 Autumn/Winter

会期：2015年 9月8日(火)－10日(木)

\* 場所：Fiera Mirano City Hall2 (予定)

Intertextile 上海 Apparel Fabrics「Japan Pavilion」2015 Spring Edition

会期：2015年 3月18日(水)－20日(金)

Intertextile 上海 Apparel Fabrics「Japan Pavilion」2015 Autumn Edition

会期：2015年 10月13日(火)－15日(木)

\* 場所：中国博覧会展覧総合体 (CHINA EXPO COMPLEX) \* 新会場

#### 【国内】

Premium Textile Japan 2016 Spring/Summer 会期：2015年 5月27日(水)－28日(木)

Premium Textile Japan 2016 Autumn/Winter 会期：2015年 11月25日(水)－26日(木)

JFW JAPAN CREATION 2016 会期：2015年 11月25日(水)－26日(木)

\* 会場：東京国際フォーラム 展示ホール

